

神の建造のための祭司職の回復

(金曜日——夜の部)

メッセージ 3

祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

聖書：ヘブル 10:5-10. ヨハネ 6:57, 63. ガラテヤ 3:27. ローマ 13:14.

I ペテロ 2:5 前半. 詩 27:4

I. キリストは祭司の食物です——ヨハネ 6:57, 63. エレミヤ 15:16：

- A. キリストが旧約のすべてのささげ物を置き換え、旧約のすべての予表(動物のいけにえ)を取り去って、ご自身をわたしたちのすべてとして打ち立てられたことは、神の大いなるみこころです——ヘブル 10:5-10。
- B. わたしたちは神の心とみこころにしたがった生活を生きて、日ごとにささげ物の実際としてのキリストを享受し、わたしたちの食物とならせ、三一の神の神聖な目標に到達する必要があります。それは、わたしたちをみなご自身の中へともたらしめて、わたしたちが彼をわたしたちの住まいとし、また彼にわたしたちを彼の住まいとしていただいて、わたしたちが彼の宇宙的で、拡大された、神性と人性の合併となることです——ヨハネ 1:14, 29, 14:23. 啓 21:3, 22：
 1. 罪のためのささげ物は、キリストがわたしたちのために罪とされたことを表徴しています。それは、彼の十字架上での死を通して、罪が罪定めされるためでした——レビ 4:3. 6:26. II コリント 5:21. ローマ 8:3. ヨハネ 1:29. 3:14。
 2. 違犯のためのささげ物は、キリストがご自身の体においてわたしたちの罪を担い、十字架上で神によって裁かれて、わたしたちの罪深い行為を対処したことを表徴しています。それは、わたしたちの罪深い行ないが赦されるためでした——レビ 5:6. 7:6-7. I ペテロ 2:24. 3:18. イザヤ 53:5-6, 10-11. ヨハネ 4:15-18。
 3. 「神のための食物として、完全に神の満足のため」であった全焼のささげ物は、神の喜びまた神の満足としての、また地上での生活が絶対的に神のためであった方としてのキリストを予表しています。全焼のささげ物は「神の食物」であって、神はそれを享受して、満足します——レビ 1:3. 民 28:2-3. ヨハネ 7:16-18。
 4. 穀物のささげ物は、人性と人の生活におけるキリストを予表しており、彼の生活は正常で、均一で、柔和で、きめが細かく、均衡がとれており、純粋で、罪のないものでした——レビ 2:1, 3-4. ヨハネ 7:46。

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

18:38. 19:4, 6。

5. 平安のささげ物は、平和をつくる方としてのキリストを予表しています。彼は、わたしたちのために彼の血を流して死ぬことによって、神とわたしたちとの間の平和と交わりとされました。わたしたちはそれによって神と共にキリストを享受し、キリストの中で神との交わりを持ち、わたしたちと神との相互の満足を得ることができるようになります——レビ 3:1. 7:14, 31-34. エペソ 2:14-15. ヨハネ 12:1-3. 20:21. 啓 21:2。
6. 揺り動かすささげ物は、愛における復活したキリストを表徴しています——レビ 7:30. 10:15。
7. 挙げるささげ物は、昇天と高く上げられることにおける力強いキリストを予表しています——7:32. 出 29:27. エペソ 1:21。
8. 注ぎのささげ物は、ささげる者の享受としてのキリストを表徴しており、ささげる者はそれによって天のぶどう酒としてのキリストで満たされて、さらには神にささげられたぶどう酒とさえなり、彼の享受と満足になることができます——出 29:40. 民 28:7-10. イザヤ 53:12. ピリピ 2:17. II テモテ 4:6. 士 9:13. マタイ 9:17。
9. 臨在 [供え] のパン、御顔のパンが表徴するのは、神の臨在、神の御顔が、神の祭司の宴席であって、神の建造のために祭司が奉仕するための供給となるということです——出 25:30. レビ 24:9. 参照、サムエル上 21:6。

II. キリストは祭司の衣服です——ガラテヤ 3:27. ローマ 13:14 :

- A. わたしたちはキリストの中へとバプテスマされ、すでにキリストの中にいますが (6:3. ガラテヤ 3:27)、依然として彼を着なければなりません。キリストを着ることは、キリストによって生き (2:20)、またキリストを生かし出し (ピリピ 1:21)、こうしてキリストを大きく表現することです (20 節)。
- B. キリストを着ることは、光の武具を着けるのと同じことです (ローマ 13:12)。このことが示しているのは、キリストがその霊と肉の欲との戦いのための光の武具であるということです (6:13. ガラテヤ 5:17)。
- C. 予表において、衣は表現を表徴します (参照、イザヤ 64:6. 啓 19:8)。祭司の衣は、奉仕する祭司のキリストの表現を表徴します。聖書によれば、祭司以上に美しく衣服を着ている人はいませんでした。
- D. 祭司の衣は、おもに栄光のため、また麗しさのためであり、キリストの

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

神聖な栄光と人性の麗しさの表現を表徴します——出 28:2 :

1. 栄光は、キリストの神性、彼の神聖な属性と関係があり（ヨハネ 1:14、ヘブル 1:3）、麗しさは、キリストの人性、彼の人性の美德と関係があります。
 2. 祭司の衣の金によって予表されるキリストの神性は、栄光のためです。青色、紫色、^{ひいろ}緋色の^よ撚り糸、また細糸の亜麻布によって予表される彼の人性は（出 28:5）、麗しさのためです。神聖な栄光と人性の麗しさをもってキリストを表現する生活は、わたしたちを聖別し、資格づけて、祭司の体系とならせます（ピリピ 1:20、I コリント 6:19-20、ガラテヤ 6:17、参照、使徒 6:15）。
- E. すべての祭司は、亜麻のももひき、下服、飾り帯、巻き頭きんを身に着けました（出 28:39-42、29:8-9 前半）。それに加えて、大祭司は下服の上に上服、エポデ、肩当て、胸当てを身に着け、また巻き頭きんの上に、彫られた記章を付けました（28:36-37、29:5-6）：
1. 細糸の織った亜麻布の下服は、対処された人性におけるわたしたちの完全な義としてのキリストのおおいを表徴します（啓 19:8）。細糸の亜麻布の巻き頭きんは、完全な義の栄光としてのキリストと、わたしたちの誇りとしてのキリストを表徴します（ピリピ 3:3、ローマ 5:2、I コリント 1:31）。^{ししゅう}刺繍職人のわざとしての飾り帯は、その霊の構成する働きの強化を表徴します（エペソ 3:16）。祭司の衣のこれら三つの部分と、亜麻のももひき（出 28:42）はすべて、義としてのキリストを表徴し、祭司の墮落した全存在を覆い（ルカ 15:22、I コリント 1:30）、彼らが命の中で守られ、死から離れるようにします（出 28:43）。
 2. 大祭司が着た長い上服とそのすべての装飾は、召会がキリストの神聖な属性と人性の美德の豊満、表現であることを表徴します——エペソ 1:22-23。
 3. 幕屋の内側には金があり、祭司の上服の胸当てには十二部族の名のある十二の石があります。このことが示しているのは、その部族（召会を表徴する）が造り変えられて宝石となり、金によって支えられて、共に建造されるということです。祭司の上服の肩当てには、十二部族の名のある二つの^{しま}縞め^うのうがありました——出 28:9-12 :
 - a. 祭司は、彼らの聖別としてのキリスト（金によって表徴される）と、彼らの造り変えとしてのキリスト（宝石によって表徴される）を持つ

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

ています。

- b. 祭司は、彼らの栄光化としてのキリスト（石が輝くことによって表徴される）と、彼らの建造としてのキリスト（十二の石が金の網細工の中で共に建造されることによって表徴される）を持っています。

- 4. エポデは、キリストの二つの性質、すなわち神性と人性において、また彼の属性と美德をもって表現されたキリストの予表です。それは祭司の衣の一部であり、しっかりと締め、あるいは縛るのに用いられました——出 28:4-6：

- a. 二つの肩当てと二つの縞めのう（9 節）、また胸当てと十二の宝石は（15 節）、エポデに縛られ、しっかりと締められました（12-28 節）。

- b. これは、キリストがエポデの構成要素である彼の神聖な栄光と人性の麗しさによって、召会をご自身に保持し、縛り、しっかりと締めることを表徴します——Ⅱコリント 1:21。

- c. 金色、青色、紫色、緋色、撚り合わせた細糸の亜麻布は、異なる色の糸でした。このように、エポデは、キリストの神性（金色）、彼の天的であること（青色）、彼の王的であること（紫色）、彼の贖い（緋色）、彼の細やかな人性の構成を表徴しており、それは彼の神聖な栄光と人性の麗しさ（亜麻布）の表現のためです。

- d. エポデの肩当ての上にある二つの縞めのうは、神の御前に記念、喜ばしい記念となりました。召会はキリストにしっかりと締められ、キリストは神の御前に永遠の記念として召会を支えます——出 28:12。

- 5. 巻き頭きんの上の聖なる冠は（29:6）、彫られた金の記章を指しており、それは大祭司の巻き頭きんの上に付けられており、「エホバに対して聖」と書いてあります（28:36）：

- a. 聖であるとは、神聖な性質がわたしたちの存在の中へと造り込まれて、わたしたちを神と同じように聖とする事柄です——Ⅱペテロ 1:4、Ⅰペテロ 1:15-16、参照、啓 21:2。

- b. 「エホバに対して聖」と彫ることは、祭司の体系全体が主へと聖別され、主に分離され、主で浸透されることを示します。

Ⅲ. キリストは祭司の住まいです——詩 90:1. 91:1. 27:4. ヨハネ 15:5. 14:23：

- A. 祭司の衣服は幕屋と同じ材料から成っていました：

- 1. 幕、垂れ幕、幕屋の入り口のとばりは、青色と紫色と緋色の撚り糸、

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

また撚り合わせた細糸の亜麻布で作られました。祭司の衣服もこれらの材料を内容としていました——出 26:1, 5-6, 31, 36. 28:8。

2. 幕屋には、金で作られた多くのものがありました。祭司の衣服もまた、金の撚り糸と、宝石の金の網細工で作られていました——6, 11, 13, 20 節. 39:3。
 3. こういうわけで、原則上、神の住まいである幕屋の材料は、祭司によって着られました。これはまさに、祭司の着ていたものが彼らの住まいであったことを意味します。彼らの衣服は彼らの住居でした——参照、II コリント 5:1-4。
 4. 旧約において、祭司の衣服は、幕屋と同じものでした。新約において、キリストも召会も、幕屋、神の家として（ヨハネ 1:14, I テモテ 3:15-16）、祭司たちが住む場所です。
 5. 新しい人はキリストのからだであり、新しい人を着ることは、からだとしてのキリストを着ること、すなわち、からだを着せられることを意味します。言い換えれば、わたしたちはからだを「着」なければなりません。からだは、わたしたちの衣服であり、覆うものです——エペソ 4:22-24, 2:15-16。
- B. 「あなたがた自身も生ける石として、霊の家に建造されていきながら、聖なる祭司の体系となって」——I ペテロ 2:5 前半：
1. 聖なる祭司の体系、団体的な祭司の一团は、霊の家です。わたしたちが正しく完全な方法においてキリストで満たされ、浸透されて、彼を表現するとき、実際において神の住まい、幕屋となります。
 2. わたしたちは、金、細糸の亜麻布、青色、紫色、緋色の表現を持たなければなりません。わたしたちがそのような十分な方法でキリストを表現するとき、わたしたちは新しい人を着たのです。わたしたちはキリストのからだを着せられています。
 3. わたしたちがキリストで満たされて、正常な方法で彼であるすべてを表現するとき、新しい人はわたしたちの衣服となります。そして、この衣服は、キリストのからだの実際であるわたしたちの住居であり、幕屋の実際です。
 4. 新約において、神の霊の家、彼の住まい、召会は、建造された祭司たちです。わたしたちがキリストで満たされ、彼を表現するとき、わたしたちは実際において召会となります。そうして、わたしたちは神と共に、安息し、住み、とどまるための場所を持つようになります——

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

参照、詩 132:8, 13-18. イザヤ 66:1-2。

5. 毎瞬、わたしたちはキリストを享受しているところを見いだされなければなりません。それは、彼の表現がわたしたちの内側から出てくるためです。わたしたちすべての人の内側から表現されたキリストは、神の霊の家、神と人との相互の住まいとしての召会、聖なる祭司の体系です——詩 90:1, 91:1, ヨハネ 15:5, 14:23, エペソ 3:16-17, I ペテロ 2:5, 啓 21:3, 22。

務めからの抜粋：

祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

わたしたちは新しい人がキリストのからだであることについて明確であるとき、新しい人を着ることはただからだを着ることを意味し、またからだを着ることはからだを着せられることを意味することであることを理解することができます。からだは、わたしたちの衣服でなければなりません。言い換えると、わたしたちはからだを「着」なければなりません。からだは、わたしたちの衣服であり、わたしたちを覆うものです。これが、新しい人を着るということが意味することです。

享受による表現

わたしたちは祭司の生活の第一の項目が、キリストを満喫することであるのを見てきました。これはキリストを取り入れることを意味します。日々わたしたちは少なくとも三度食事をしますが、その時はただひたすら食物を取り入れます。食べることによってわたしたちの中に取り入れるものは何であれ、最終的にわたしたちの一部となります。これまでわたしたちは多くの鶏、卵、肉、じゃがいもや、他の多くのものを食べてきました。その鶏は今どこにあるのでしょうか？ 卵はどこにあるのでしょうか？ わたしたちは今、鶏でもあり、卵でもあるのです。すなわち、わたしたちの肉体的な存在はこれまでに食べたすべてのものの構成体となりました。祭司職の生活は、おもにキリストを取り入れることです。祭司職を認識しようとするなら、わたしたちはどのように日々キリストを取り入れるかを知らなければなりません。そうすれば、彼から食べるものは何であれ、まさにわたしたちの構成要素となります。

第二にわたしたちは、取り入れたキリストがわたしたちの現れとなるこ

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

とを見てきました。これはわたしたちの衣服です。わたしたちが取り入れる食物は内側の供給であり、わたしたちが着る衣服は取り入れたものの外側の表現です。わたしたちが一日中キリストを常食とするなら、ついに彼はわたしたちの内側から表現されます。わたしたちが彼から食べれば食べるほど、ますます彼は表現されます。そして、この表現が衣服です。わたしたちはキリストを毎日享受するとき、キリストを表現します。わたしたちが享受するのは、内側に取り入れたキリストであり、わたしたちが表現するのは外側に現されたキリストです。この現れが天的で靈的な衣服です。

祭司の衣服はおもに五つの異なる要素でできています。すなわち、金、細糸の亜麻布、青色、紫色、^{ひいろ}緋色です。キリストの表現はわたしたちを通して、これら五つの方法で現されます。まず、キリストは神聖な性質を表す金として、わたしたちを通して現されるべきです。わたしたちは内に人性にまさる何かを持っているという印象を他の人に与えなければなりません。これが金、神聖な命、すなわち、わたしたちを通して表現される神ご自身の性質です。わたしたちの日常生活におけるキリストの表現は、これらの要素を持っていなければなりません。他の人たちは、わたしたちが人であるだけでなく、より高いもの、人の言葉では表現できないものを持っていることに気づくでしょう。わたしたちの内にあるこの靈的な金は、わたしたちの天然の振る舞いではなく、神聖なもの、神の性質に属するものです。

次に、わたしたちのキリストの表現はまた、キリストの純粋な義を表徴する細糸の亜麻布を持たなければなりません。わたしたちはそれほど純粋で、義で、正しくなければなりません。キリストがわたしたちの中におり、わたしたちが彼をわたしたちの命として享受するなら、わたしたちはそれほど誠実で、義で、純粋であるでしょう。すべての人は、最も道徳的な人であっても、それほど純粋で正しくはありません。しかし祭司の体系は、誠実、公正、義の真の表現です。

祭司の体系はまた、天的さを表徴する青色を表現しなければなりません。わたしたちは地上で生活していますが、地的な人たちではなく、天的な人たちです。わたしたちは天に属する人たちであり、天にいる人たちでさえあります。わたしたちの生活には、天的な青色の表現があるでしょうか？

紫色の表現もなければなりません。古代の歴史において、紫色は王族の

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

色でした。王族のすべての者、特に王は紫色の衣服を着ていました。このように、紫色は王族と王の威厳を表徴しています。わたしたちのキリストの表現には、この王の威厳がなければなりません。わたしたちはあまりに卑しく、俗的であるべきではありません。ときどきわたしたちが他の人を取り扱うとき、威厳を失います。しかし、わたしたちがキリストによって生きるなら、わたしたちを通して表現される霊的で神聖な威厳を持つでしょう。

それから緋色があります。わたしはウオッチマン・ニー兄弟と共にいて、かなりの期間がたってから、一緒に祈る時はいつも、彼が主イエスの血を適用することについて必ずある深い言葉を口にすることに気づきました。パンさきの集会においてできえ、彼は血を適用する深い言葉を多く口にしました。彼のそばにいるとき、わたしはいつも緋色の感覚を持ちました。彼は祈る時はいつも、必ず主イエスの血を適用していました。なぜでしょうか？ なぜなら、彼は贖いを知っていたからです。

わたしたちは血を適用することなしに、決して主の御前に来ることができません。血なしに聖所に入ることのできる祭司は一人もいませんでした。自分が罪深いと感じようと感じまいと、わたしたちはやはり罪深いのです。なぜなら、わたしたちはなおも古い性質の中におり、そして今もこの汚れた地上を歩いているからです。多くの点で、わたしたちは意識していようがいまいが汚されており、それゆえに血を適用する必要があるのです。わたしたちは緋色なしには生きられないことをいつも他の人たちに示していなければなりません。その意味は、わたしたちは主の贖いの血なしには生きられないということです。わたしたちのキリストの表現において、わたしたちは自分が罪深く、汚れていて、不潔であるという認識を常に持っているという印象を他の人に与えなければなりません。わたしたちはいつも血の清めを必要とし、血によって生きているという感覚を他の人に与えなければなりません。わたしたちは、わたしたちを清め、わたしたちを覆う血を適用することなしに、キリストを命として享受することは決してできません。

キリストの表現において、わたしたちは神聖な性質、純潔さと義、天的さ、王的な威厳、贖いを持たなければなりません。これらがキリストの表現における項目です。わたしたちが彼を表現するなら、これらすべての項目としての彼を表現します。

わたしたちが日々キリストを満喫し、彼を享受している者であるなら、

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

自然に他の人に神聖な性質、純潔さ、天的さ、王職、キリストの贖いの印象を与えるでしょう。他の人はわたしたちと接触したり、祈ったりするとき、わたしたちが神聖な性質に満ちていると感じます。彼らはわたしたちの中に義と天的さを感じます。彼らはわたしたちと語れば語るほど、天にいますと感じます。わたしたちの存在が彼らにとってまさに天となります。わたしたちはキリストで満たされているとき、キリストの天的さを表現します。最終的に、他の人はわたしたちの中に彼の王職と贖いをも感じるでしょう。この祭司の衣は、キリストの栄光の表現です。

表現による建造

祭司の衣服が幕屋と同じ材料でできていることに注目するのは、非常に興味深いことです。彼らの衣服は、金、細糸の亜麻布、青色、紫色、緋色から成っており、幕屋も、金、細糸の亜麻布、青色、紫色、緋色から成っていました。これは全く、祭司の着ていたものが彼らの住まいであったことを意味します。彼らの衣服は彼らの住居でした。

召会とは、非常に多くの聖徒たちの内側からのキリストの表現にほかなりません。わたしたちすべての者の内側から表現されたキリストが召会です。わたしたちにこのキリストの表現がないなら、召会はありません。わたしたちは召会であると言うのは、ある意味で正しいかもしれませんが、真の召会生活はキリストの表現です。ですから、祭司の衣服は彼らの住居、住まいでした。彼らの衣服は幕屋と同じであり、幕屋は彼らの住む場所でした。

わたしたちは、祭司たちが今日、幕屋で予表された神の住まいであることを認識しなければなりません。ペテロの第一の手紙第2章5節は言います、「あなたがた自身も生ける石として、霊の家に建造されていきながら、聖なる祭司の体系となって」。前に指摘したように、ここの「祭司の体系」という言葉は、祭司の一団を意味しています。それは祭司の職務を意味するものではありません。ヘブル人への手紙第7章11節の「祭司職」は祭司の職務を意味していますが、ここのペテロの第一の手紙第2章5節では、祭司の一団を意味しています。聖なる祭司の体系とは、団体的な祭司の一団である霊の家です。わたしたちがキリストで満たされ、浸透されて、彼を正確かつ完全に表現するなら、神の住まいとなります。わたしたちは予表にしたがって幕屋と「成ります」。幕屋は祭司と決して切り離すことができませんでした。祭司のいる所には常に幕屋があり、幕屋のある所には常に

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

祭司がいます。祭司は幕屋と共に進み、幕屋は祭司と共に進みます。新約聖書は、祭司は霊の家、すなわち幕屋であると明確に述べています。

わたしたちは自分自身をどのように考えているのでしょうか？ わたしたちは自分自身を神の正当な住まいである霊の家であると考えているのでしょうか？すでに述べたように、幕屋は金、細糸の亜麻布、青色、紫色、緋色の表現です。わたしたちは神の住まい、神の幕屋であると言うなら、金を表現しているのでしょうか？ わたしたちは純潔さを持っているのでしょうか？ わたしたちは青色、紫色、緋色を表現しているのでしょうか？ もしそうでないなら、わたしたちは何を表現しているのでしょうか？ それは天然のものでしょうか？ それは肉の何かでしょうか？ わたしたちが天然のもの、肉の何かを表現しているなら、神の幕屋にはふさわしくありません。わたしたちはただ金、混ざり物のない亜麻布、青色、紫色、緋色の表現だけを持たなければなりません。そうすれば、わたしたちは神の霊の家、すなわち幕屋となるように資格づけられます。そのような適切な方法でキリストを表現するとき、わたしたちは新しい人を着ているのです。すなわち、わたしたちは召会を着ています。わたしたちはキリストのからだを着せられています。

自分自身を調べてみましょう。わたしたちはキリストのからだであると言うなら、何を表現しているのでしょうか？ わたしたちが表現するのは神聖な性質でしょうか、それとも何か別のものでしょうか？ 神聖な性質を表現することとは対照的に、わたしたちはしばしば自己や、それよりもさらに悪い肉をさえ表現しているのではないかとわたしは恐れます。しばしばわたしたちは神聖な性質という金の代わりに、自己、肉、魂、古い人、天然の命を表現しています。これらすべての消極的なものを表現するとき、わたしたちはまさに召会生活の外にいます。

わたしたちはキリストのからだであると言うなら、自分たちが何を表現しているかを調べなければなりません。わたしたちが表現しているのは罪や悪でしょうか、それとも、キリストの純潔さや義でしょうか？ わたしたちは天的であることよりも世俗的であることを表現しているのでしょうか？ わたしたちはキリストのからだであると言いますが、わたしたちの日常生活の中に他の人たちは世俗的であることしか見ることができないのをわたしは恐れます。それでは、どうしてわたしたちはキリストのからだであると言えるのでしょうか？ わたしたちが表現しているものは、幕屋の幕が表現しているものと同じではありません。幕屋の幕が表現しているの

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

は、キリストが何であられるかのあらゆる麗しさです。

わたしたちは紫色で見られるように王職を表現しているのでしょうか？
ときどき、わたしたちは自分がとても弱くて、幼稚な赤ん坊であることを表現しているだけです。それでは贖いについてはどうでしょうか？ 多くの親愛なる兄弟姉妹が自分は汚れていると感じていないことをわたしは恐れます。わたしは聖徒たちの非常に多くが祈っているのを見聞きしてきましたが、彼らが主と接触する時はいつも、血の必要を深く感じている人は多くいません。自分が汚れていて、不潔であることを認識している人は多くいません。わたしたちは主の御前で罪深いという意識に欠けています。ある意味で、わたしたちは自らを義としています。わたしたちは自分が汚れていると感じないで、いつも正しいと感じています。わたしたちは何と主の贖いを表現する必要があることでしょうか。

わたしたちは、キリストであられる「すべて」を表現しなければなりません。そうすれば、わたしたちは幕屋の一部となるだけでなく、幕屋となります。その時、わたしたちは家のない者ではありません。わたしたちがクリスチャンになって何年たったとしても、この点に達しない限り、いつも家がありません。わたしたちには安息がありません。なぜなら、わたしたちには正常な真の召会生活がないからです。わたしたちがキリストで満たされて、正しく彼を表現するとき、わたしたちは召会の一部となって、召会はいつもわたしたちと共にあります。その時、わたしたちは安息し、住み、とどまる場所を持ちます。

これは教理的ではありません。教理を論じることは無意味であり、何の益にもなりません。わたしたちは実際に調べなければなりません。わたしたちには常に霊の家があると本当に感じているのでしょうか？ わたしたちにはいつもこの感覚があるのでしょうか？ 主を賛美します。わたしには霊の家があります。そしてその家とは、わたしがその一部分となっている真の召会生活です。新しい人はわたしの衣服となります。そして、この衣服はわたしの住居です。この新しい人を着るとき、わたしはまさに家にいるのです。ここに安息があり、わたしはここに住むことができ、ここにとどまることができます。わたしの生活全体は今、家にあります。あなたはどこにいますか？ あなたは家にいますか？ あなたには霊の家がありますか？ 長年わたしは家庭生活を享受してきたと言うことができます。そして、この家は真の召会生活です。しかし、わたしが自己に属するもの、魂に属するもの、肉に属するものを表現する時はいつも、直ちにわたしは召

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

会生活の外にいます。わたしはまさに家のないようになります。

わたしたちがキリストを享受することによって彼で満たされる時はじめて、これらの五つの面としての彼を表現します。このようにして、わたしたちは衣服を持ち、そしてその衣服がわたしたちの住居となります。わたしたちは召会生活を持ち、わたしたちは召会生活の一部であり、そして家にいます。わたしたちは今、安息して、この表現の中に住むことができます。

前の編で、祭司の衣服の上に建造があることを述べました。神の民を表すすべての宝石が金の網細工にはめ込まれています。彼らは神聖な性質「で」建造されており、また神聖な性質の「中で」互いにかかわりを持っています。ですから、彼らはからだであり、召会です。わたしたちが団体的な方法で仕えるのは、この時です。ペテロの第一の手紙第2章5節は、わたしたちは生ける石として、生ける霊の家、すなわち、聖なる祭司の一团、祭司の体系に建造されるとき、神に霊のいけにえをささげると言っています。その時はじめて、わたしたちは団体的な方法で適切に主に仕えることができます。わたしたちは主に仕えることで単独であるべきではないと言います。しかしどんなにそう言ったとしても、人はなおも単独であるでしょう。なぜなら、彼らは生まれつき単独であるからです。教えそのものによっては、人が依存するように助けることは決してできません。なぜなら、依存することは造り変える働きを通して来るからです。わたしたちがキリストのかたちに造り変えられて、完全に彼を表現するとき、自動的にわたしたちの個人主義はなくなってしまいます。その時はじめて、わたしたちはからだの組み合わせと、かかわり合いの中にいます。

わたしが何度もメッセージを与えて、他の人に依存し、組み合わせられ、かかわりを持つように語っても、何も成し遂げることはできません。わたしたちはキリストを常食とし、彼で満たされ、浸透される時はじめて、キリストのかたちに造り変えられます。その時、わたしたちは先に述べた五つの方法で彼を表現するでしょう。このときまでには、わたしたちの個人主義はなくなっているでしょう。自然に、わたしたちは真の召会生活の中で聖徒たちと一になります。これがキリストのからだであり、召会の建造です。

金の中にはめ込まれた石の建造が祭司の衣服の上にあります。この衣服は、キリストを食物として享受する祭司たちの内側から出た、まさにキリストの表現です。キリストをわたしたちの養い、また食物として享受し、

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

消化するうちに、彼はわたしたちを浸透し、飽和してくださいます。それは、わたしたちが彼を表現するためです。その時、この表現はわたしたちの衣服となります。そしてこの衣服の上には金の中にはめ込まれた宝石としての聖徒たちの建造があります。このように召会の建造はキリストの表現の中にあり、この表現はキリストを享受することから出てきます。

ですから、キリストを享受することはとても基本的です。わたしたちはみなどのようにキリストを享受するかを学ばなければなりません。こういうわけで、召会生活は単に教えや賜物だけから出てくるものではないと何度も強調しているのです。どんなに多くの教えを学ぼうと、あるいは、どんなに多くの賜物を持っていようと、それだけで真の召会生活を持つことはできません。真の召会生活は、内側でのキリストの真の享受からのみ出てきます。わたしたちはすべての事で、いつも彼を享受しなければなりません。わたしたちはこれを教理とするのではなく、日々の実行としなければなりません。一日中、わたしたちは主を常食とし、彼をわたしたちの養いとしなければなりません。この享受から、わたしたちはキリストの表現である「衣服」を持ちます。神聖な性質の中にはめ込まれている聖徒たちの建造があるのは、この表現においてです。これが召会を建造するための唯一の道です。

これらの事柄を徹底的に見るために、わたしたちの目が開かれなければなりません。他に方法がないことを、歴史ははっきりと語っています。一世紀半の間に、キリスト教において多くの教えが教えられてきましたが、その結果はいつも分裂でした。教理はキリスト教に分裂をもたらしました。過去数十年の間に、ペンテコステ的な賜物はおもに混乱という結果になりました。こういうわけで、この最後の日々に主は内なる命から成る祭司の体系を回復しようとしておられると、わたしたちは信じます。それは、教えや賜物の回復ではなく(それらにも一定の価値はありますが)、祭司の体系による召会生活の回復です。祭司の体系による召会生活は、単なる教えや賜物から出てくるのではなく、内なる命から出てきます。

毎瞬、わたしたちはキリストを享受しているところを見いだされなければなりません。それは、彼の表現がわたしたちの内側から出てくるためです。その時、この表現の中で、わたしたちはからだの建造を持ちます。そしてこの召会の建造において、わたしたちは主と共に進むべき正しい道を告げるウリムとトンミムの啓示を得ます。これは光と完備です。照らしと完全さは、主のかたちに造り変えられ、神聖な性質の中にはめ込まれた聖

3. 祭司の食物、衣服、住まいとしてのキリスト

徒たちの建造から出てきます。どうか主がわたしたちをこのような祭司の体系の中にもたらしてくださいませうに。(ウイットネス・リー全集 1966 年第 1 巻(下)、祭司の体系、第 10 編)